

平成27年度大分県学力定着状況調査結果分析と改善方策について

宇佐市教育委員会

1. 偏差値平均値

	小学校5年						中学校2年							
	国語		算数		理科		国語		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
宇佐市	52.2	51.1	53.0	52.7	53.4	51.7	50.2	49.7	51.4	50.3	50.3	50.3	49.6	50.7
大分県	51.6	50.5	52.3	52.4	52.1	51.3	51.0	49.4	51.0	50.5	50.6	50.5	49.9	49.9

2. 結果の概要と分析および改善策

小学校 国語

- 観点・領域別に見ても、すべて偏差値50を超え好結果である。
- 「書くこと」の領域で特に好結果となり、言語活動の成果が見られる。
- ☆漢字や文法について繰り返し学習できる環境を学校全体で整える必要がある。
- ☆単元を貫く言語活動を設定した授業づくり、読書活動の推進、図書資料を活用する授業の充実を図る。

小学校 算数

- 観点・領域別に見ても、すべて偏差値50を超え好結果である。
- 「図形」領域において特に好結果となっている。
- ☆単元の中で、既習の知識や技能を活用する場面を設定した授業を計画的に実施する。
- ☆見通しをたてたり、振り返ったりする活動の工夫や数学的用語を使い表現力の育成をする言語活動の充実を図る。

小学校 理科

- 観点・領域別に見ても、すべて偏差値50を超え好結果である。
- 「自然現象についての知識・理解」で特に好結果となっている。
- ☆児童の興味・関心を生かした課題の設定と、主体的に問題解決ができる指導の充実を図る。
- ☆観察・実験結果を整理し、自然の事物・現象（日常生活）と関連づけて考察する学習指導を充実させる。

中学校 国語

- 教科総合では偏差値50で概ね良好といえるが、「読むこと」領域においては偏差値50に達していない。
- 説明文の内容を読み取ることに課題が見られる。
- ☆目的に応じて資料の内容を整理したり、必要に応じて引用したり、自分の言葉で引用したりする活動を充実させる。
- ☆課題解決的な言語活動を設定し、多様な図書資料等を活用した授業を推進する。

中学校 数学

- すべての項目で偏差値50を超えている。
- 説明を要する問題や空間図形・平面図形の問題に課題が見られる。
- ☆実際に図形を回転・移動させたりするなど、視覚的に捉える活動の工夫が必要である。
- ☆問題解決的学習の充実と、言語活動の充実や、数学的用語を使った表現力の育成を図る。

中学校 理科

- すべての項目で偏差値50を超えている。
- 「身の回りの物質」「大地の成り立ちと変化」の領域に課題が見られる。
- ☆科学的な言葉や意味を自然の事物・現象など日常と関連づけて考察する授業を推進する。
- ☆実験・観察結果を言語化して、考察、説明する学習や協働的な学習を充実させる。

中学校 英語

- 活用では偏差値50を上回り、県の偏差値も超えているが、知識では偏差値50をわずかに下回った。
- 昨年の課題であったリスニングは改善されているが、長文の読み取りに課題が見られる。
- ☆基礎的・基本的事項の確実に定着させる工夫が必要である。
- ☆聞く力、自分の言葉として英語を話す力を付けるための活動の充実を図る。

児童生徒質問紙

- 小・中ともに、規範意識、社会参画、学習習慣、生活習慣のカテゴリーで全国値に比べ良好な状況である。
- 中学校において課題であった「授業中の意見発表」は昨年に比べ良好な結果となっている。生徒主体の授業改善が進んできた成果と思われる。
- ☆平日のテレビの視聴時間は小学校においては3時間以上が減少し、全国や県と同程度となった。中学校では、まだ全国値より多い状況は変わらない。スマートフォン等の取扱も含め、保護者とともに考え、対応する必要がある。